

## 明法坊ゆかりの地 法専寺



明法坊ゆかりの地 法専寺（新）

報恩講には多くの寺院で『御絵伝』（親鸞聖人の御生涯を描いた絵図）が掛けられる。その中で、特に劇的に描かれているのが「弁円済度」の一段ではないだろうか。

それは、親鸞聖人を妬み、暗殺をもくろんでいた山伏弁円が、証人と出会うとたちどころに回心懺悔して弟子となり、聖人から明法と法名を頂いたことは有名である。その明法房開基の寺の一つが、ここ法専寺である。

本堂は数十年前に台風被害で倒壊し、その残った木材を使って本堂が建てられたため、以前よりだ

いぶ小さくなったという。

その本堂の右側には宝物館があり、親鸞聖人御真筆と伝えられる「六字名号」や「御和讃」をはじめ、多数の寺宝が収められている。その中に弁円が聖人暗殺を試みたときに携えていたと伝えられる「弁円悔やみの剣」がある。この刀は近年、笠間市福田在住の方が本来、法専寺にあるべきものだからと頂いたとのこと。

また、法専寺周辺は県立自然公園として整備され「明法坊の塚」へは境内右わきから始まる散策路を経て、徒歩15分ほどで行くことができる。

京都に帰られた聖人は、明法坊の死去の知らせを聞き、そのことに対し、常陸の門弟に何通にも渡りお手紙を書かれている。その中に「明法の御坊の往生のことをききながら、そのあとをおろかにもせんひとびとは、その同朋にあらずそうろうべし」（御消息集）と、明法坊の生き様を知りながら、自身の無明性に気付かずにいる常陸の門弟に対する聖人の厳しい戒めの言葉が記されている。

当時の趣を残した周囲に溶け込む明法坊の塚が「この聖人の言葉は今を生きるあなたの課題である」と語りかけているようであった。